

小山をよくする会



赤枠で囲われたところが小山地区

1 基本データ

(1) 小山地区の概要

大野市小山地区は、人口約2千人、世帯数は約600戸。15の集落で構成される緑豊かで自然にあふれた農村地域である。

面積は、東西2キロメートル、南北4キロメートルの約8平方キロメートル。その位置は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展してきた歴史がある。

本事業の実施主体は、地区内全戸を会員とする小山をよくする会である。

事務局を小山公民館に置き、地区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進委員45人で話し合いを行いながら、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指して活動している。

2 現状と課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇る地区である。

公民館の歴史講座を受講したことをきっかけに、平成18年頃に地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきた。

この活動をベースとして、平成22～25年度の実施された「越前おおの結の故郷づくり交付金事業」を活用して、地域の歴史と文化を活用した地域づくり事業を展開した。

事業を実施するにあたり、次の二つを事業の柱とし、事業の実施方針とした。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、これを地区住民に知ってもらい、地域を誇りに思う住民意識の醸成すること目的とした「歴史と文化の里づくり事業」である。

もう1つは、古くから米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」を後世に承継していくことを目的とした「地域コミュニティ支援事業」である。地域住民が一丸となり、地域の課題を住民が知恵を出し合い協働で作業し解決するといった風土を継承していくために支援していくものである。

3 事業の内容

①歴史と文化の里づくり事業

平成23年度に地域の歴史の掘り起こしを目的として開催した地域歴史講座に、講師としておいでいただいた青木豊昭氏（県立一乗谷朝倉遺跡資料館 元館長）が、小山地区の史跡などに興味を持たれ、独自に史跡調査を実施された。

その結果、南北朝時代の戦を記録した軍中状に記されている「舌城」が、御城山（上舌地係）に存在していたことがわかってきた。

また、御城山に38基ある古墳群に墳丘の長

さが約30メートルの前方後円墳が確認された。奥越地区唯一の前方後円墳と言われる山ヶ鼻6号墳（尾永見地係）に次いでの見つけである。

歴史的に貴重な史跡として確認された舌城を地域内外の方に知ってもらうために、平成24年度より散策道の整備を開始し、今年度全区間が完了できた。

御城山は、標高244メートルで高低差は約50メートルの低い山であるが、人が歩けるような道が全くなかったところを切り開いて道を作ることは重労働であった。今後はこの作業道を維持していくことが重要であり、下草刈りなどの維持管理を継続して行く必要がある。

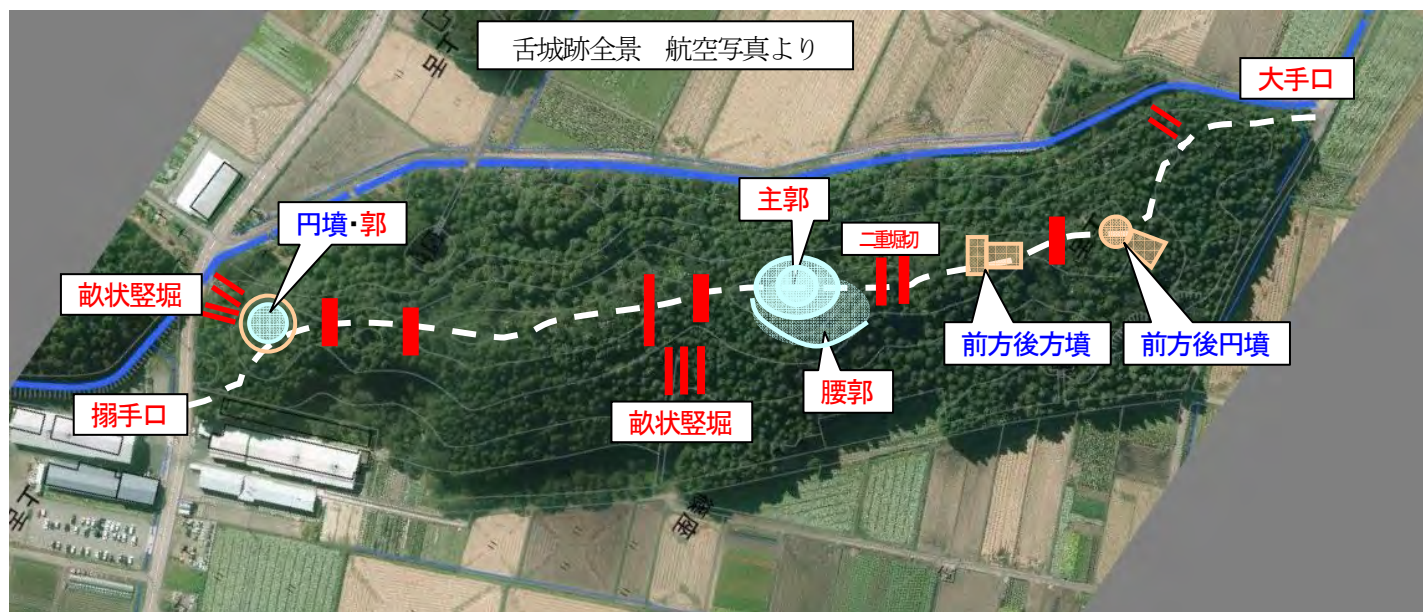
平成26年度舌城跡遊歩道整備作業



作業内容としては、下草刈り、立木の枝伐採、



主郭・堀切などの山城跡がはっきりと姿を現し、中世の戦いの舞台へタイムスリップしたような感覚を味わえる場所となった。



今年度は、市制施行60周年を記念する年であり、小山公民館で30年以上にわたり勤務された、嘱託主事の塚田智津子さんが退職を迎える年である。地区の歴史に詳しく、公民館活動をけん引してきた塚田が在職最後の年、この機会を逃すことなく、これまで活発に公民館活動を実践され小山地区の発展に寄与された有志の方々の発起により、公民館の活動の歴史を記録誌として取りまとめることとなった。

平成25年5月29日（水）に編集委員会設立の第1回会議を開催後、平成27年3月16日（月）完成報告会まで、13回にわたる編集委員会を重ね作業を行った。

小山公民館の歴代館長と職員の名簿、地区内の各種団体のあゆみと歴代会長名簿、地区の年表と人口変遷、過去の公民館報の紹介、活動の記録写真、むかしの農作業の様子や豪雪時の対応などのくらしぶりを掲載した、全202ページにわたる「あかねのながれ」大野市制60周年記念小山公民館誌を発刊した。

編集委員会では、毎回、昔話に花が咲き、楽しかった思い出、活躍された方の武勇伝、当時のくらしぶりなどが話し合わせ、地区住民の記憶に残るものを記録に残すことの有意義さを実感することができた。

発刊した冊子は、地区内の全世帯と関係機関に配布した。



②地域コミュニティ支援事業

今年度も、5地区において集落内の問題を解決するための事業と、小山地区内有志で組織された実行委員会による地域・世代間交流事業が計画され、提案された。

- ・阿難祖穴僧の洞整備（継続）（阿難祖地頭方）
- ・集落内の公園遊具移設（阿難祖領家）
- ・集落内の公園整備（上黒谷）
- ・集落センター外部コンクリート舗装（上荒井）

- ・集落伝承祠前整地、舗装（下黒谷）
- ・住民交流事業キッズフェスタ（実行委員会）

毎年、提案された事業費総額が交付金予定額を上回るため、小山をよくする会推進委員会において交付金の配分額を決定した。

阿難祖地頭方区では、阿難祖の地名の由来とされる穴僧の洞までのアクセス道の整備を平成25年度から行っている。車両が通行できる林道から、洞までの約200mについて、昨年度の上部約30mのコンクリート舗装に引き続き、アクセス道入口から約50mを追加整備し洞まで誰もが気軽に見学できるようになった。



阿難祖地頭方地区のアクセス道整備

阿難祖領家地区では、集落センターに隣接す

る公園の遊具を利用しやすいように、公園奥から手前へ移設した。このことにより、子どもたちが元気に外で遊ぶ場所ができたことで、集落内の子どもたちが仲間と集い、集団活動や社会性などの育成の機会を提供することができた。



阿難祖領家地区の遊具移設

上黒谷地区では、集落内にある遊具などが設置されている公園は、水はけが悪く雑草が生い茂る状態が長く続き、利用しづらい状態であった。

そこで、草刈り後、土砂と赤土を引き、ローラーによる転圧を行い、公園が利用しやすいよう整備を行った。

集落内の子どもたちが仲間と集い、集団活動や社会性などの育成の機会を提供することができた。



上黒谷地区の公園整備

上荒井地区では、集落住民で話し合いを持つ

た結果、集落センターの周囲に雑草が生い茂り、水はけも悪い状態であることが問題であり、これを解消しようということになった。

そこで、雑草を取り除き集落センター外部をコンクリート舗装することとした。

このことにより、集落センターの建物が湿気から解放され、集落の財産を適正に維持することにも寄与できた。



上荒井地区の集落センター外部コンクリート舗装

下黒谷地区では、前年度に引き続き、地区が保有する遊具広場に砂利、赤土を敷き整地した。

当初より予定した範囲が、前年度の交付金配分額の減額により未整備エリアの残すこととなった。

この部分を今年度継続して整備し、予定していた箇所が完了した。



下黒谷地区の伝承祠前整備

小山公民館で活動するグループの有志により結成されたキッズフェスタ実行委員会により、地区全体の交流、世代を越えた交流の機会として、キッズフェスタが今年度も継続して開催された。うすと杵を使った餅つきを子どもたちに体験させる内容とした。家庭での餅つき体験が少なくなりつつある中、子どもたちに餅つきを体験させる良い機会となった。また、地域に住む餅つき熟練者を招き指導してもらったことで、世代間の交流も生まれ、地域の絆が深まったイベントとなった。

継続しての開催となったことから、住民への認知度も高まり、参加者も年々増加してきている。今回についても、参加者からは大変好評だったという声が届いている。



キッズフェスタの様相

4 事業の成果

①歴史と文化の里づくり事業

歴史的に価値のある史跡を地域住民に知ってもらうための舌城跡整備は、住民の作業により実施されたことから参加者はいにしへの山城や古墳を肌で感じ取れたようである。また、小山をよくする会の独自事業として、整備された舌城跡を含め地域の史跡をめぐる「地域史跡めぐりウルトラクイズ」を開催し、住民への周知を図るとともに、地域を誇りに思う住民意識の醸成に取り組んだ。

参加者からは、小山地区に住んでいながら「地域の歴史の知らないことが多いことに気づいた、地域の歴史に興味をわいた。」などの声があり、地域の歴史を知り、興味を持ってもらい、地域を誇りに思う意識が芽生えつつあると言える。

また、市制60周年を記念する年であることから、公民館を中心とした地区の活動の歴史を取りまとめた「あかねのながれ」記念誌を発刊することができた。これらは、地区内全世帯と関係機関へ配布し、これまでの地区の活動の歴史を振り返ることで、今後の地区活動の指標を得る1冊になることを期待している。

②地域コミュニティ支援事業

集落が持つ課題を集落で話し合い、集落の力で解決していくこの事業を実施したことにより、集落の共助や絆の大切さを再認識することができた。

小山地区は、農作業など地域で協力する“結の精神”が受け継がれている地区である。しかしながら、農作業の機械化や就労環境の変化などに伴い、地域をあげた共同作業の機会が減少しつつある。本事業で地域の課題を話し合い、共同作業により解決することは、“結の精神”を継承する上で大いに役立ったと思う。

また、地域交流・世代間交流を目的に実施したキッズフェスタでは、昔ながらの食文化を受け継ぎきっかけとなり、イベントを通じた交流が深まった。

5 今後の展望

継続したテーマを掲げ取り組んだ結果、事業に参加した人を中心に、地域を誇りに思う住民が徐々に増えている。平成26年度には、結の故郷発祥祭市民等提案事業の採択を受け、地域の歴史学習グループが、小山地区から出土した

土器の展示、県内最古とも言われる黒谷経塚出土物の写真紹介、歴史ある寺院の秘仏特別公開など、地区の歴史を紹介するイベントを開催した。このことにより、地区内外に小山地区の古い歴史を紹介するなど、事業の広がりがみられる。

歴史と文化の里づくり事業においては、舌城跡の下草刈りを毎年行うなど、地区内外の方々が気軽に散策できる道を保全していく必要がある。また、整備された遊歩道を利用し、地域住民への史跡説明会などのイベントを開催し、引き続き住民周知に力を入れ、地域の歴史を通じて、地域を誇りに思う意識をさらに広め、高めていく必要がある。

また、地域コミュニティ助成事業については、事業の目的としている“結の精神”の継承を図るため、事業を継続していく必要がある。

農作業の歴史が作り上げた助け合い、協力する精神を今後、長く継承するためには、継続した取組みが必要である。

地域活動が活性化し、地域を誇りに思う意識や機運がより高まるよう、小山をよくする会として、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで行きたいと考えている。